



# 資料 1

	主査	主幹	課長	教育長
				

復 命 書

平成31年2月22日

教育長 様

役職 教育総務課 主幹 新井 洋子 

[日時] 平成31年2月15日(金) 13:00~16:00	[会場] 連雀学園三鷹市立南浦小学校・第一中学校
--------------------------------------	-----------------------------

[用 務]  
川島町小中一貫教育推進協議会視察研修  
コミュニティスクールを基盤とした小・中一貫教育校

[復命事項]  
川島町小中一貫教育推進協議会委員(10名)及び教育委員会委員(2名)、事務局職員(4名)及び各小中学校教諭(5名)により小中一貫教育校の視察研修として三鷹市の連雀学園三鷹市立南浦小学校及び第一中学校で行われた研究授業発表会を視察。  
21名の参加者は(別紙)のとおり。

■三鷹市立小・中一貫教育連雀学園について  
施設形態：施設分離(連携)型  
中学校区を単位とした小・中一貫校  
平成20年度に1中学校、3小学校で組織された小中一貫教育校、連雀学園が開園

■視察内容  
午後1時~午後3時15分  
◎平成29年度、30年度三鷹市教育研究協力校  
「創み出し かかわり、高めあう児童・生徒の育成」の公開授業及び部会発表の視察  
午後3時30分~午後4時  
◎三鷹市の小中一貫教育の取組について説明【三鷹市役所内】  
貝ノ瀬 滋委員  
三鷹市教育委員会 教育施策担当課長  
◎質疑応答  
◇小中一貫教育進めての成果について  
・不登校が減った。

・学力が上がった。

・コミュニティスクールを取り入れることで地域の方がボランティアとして協力してくれることで、子供のケアをしていただける。

・施設一体型でも分離型でも、小中一貫教育には、メリットの方が大きい。

・9年間で責任ある児童生徒の育成ができる。

◇カリキュラムをどこまで作ればいいのか

・小中が乗り入れをすることを前提にカリキュラムを作るが作業は大変である。

先進的に進めている学校をモデルに、そこから自分たちの学校にあったものを作っていく。

◇それぞれの学校で地域に根差した教育をおこなっているが小中一貫となると学校の取組は変わるか

・三鷹市では、各学校が起業化教育をし、各校でアプローチの仕方が違う。学校ごとに特色をだし地域との連携を図っている。

◇小中の教師が連携して授業を持つ場合、どの程度行なえばいいのか。

・算数や体育からが入りやすい。三鷹市は現在6年生が行っている。

5、6年生から行くと中学への移行がスムーズである。

詳細については、別紙の資料のとおりです。